

## 闘牛の赤不思議

ウシといえば、動作ののろいことでは「モシモシカメヨ」の亀さんどっこいどっこいだが、この愚鈍の代表みたいなウシが、面目一新、うって変わった一面をみせるのが「闘牛」。なかでも有名なスペインの闘牛は、名作「カルメン」とともに、その名を世界にとどろかせている。

このカッコいいシヨーにぜったい欠かせないのが、闘牛士がウシの前でひらひらさせる赤い布。それがウシの鼻先で右に左に、巧みに振られると、あの鈍重そのもののウシが、なぜか怪しく興奮する。その興奮ぶりをさんさんもてあそんでおいて、さいごに剣で、ウシの首筋をひと突き、いとも残酷なシヨーが終わるのである。

ところで、この赤い布を用いた洋式闘牛——ウシは、はたしてほんとに赤い色を見て興奮するのだろうか？ 疑問をいだく人が昔から少なくなかった。というのも、一般に動物には色が分からないといわれるが、ウシが赤い色に興奮するというのはかなり疑問があるという考え方で、この説をなす人は、赤い

色に興奮するのは闘牛士や観客など人間の方で、牛が興奮するのは色ではなく、布の動き、目先でちらつき動くものに対してではないのかというのである。

事実、これまでの研究によると、ウシが色を識別できるかは未だによく分からない。たとえばウシにいろいろの色をみせて、その際の反応を心臓の鼓動でとらえた実験によると、ウシの前で赤いものをちらつかせようが、青いものをちらつかせようが、心臓の鼓動にはこれといった変化は起こらなかった、と報告されている。

とすると、人間の闘牛場の熱狂がウシにも伝わっていくからではないか、とも思われるのだが、ある酪農家の報告によると、例えば牛舎が火事になったようなときは火の赤い色を見て極度に尻込みをするという。また、さきの心臓の鼓動の実験で、実験中にウシがふと傍の注射器を見て、そのさいなぜか激しくメーターがゆれ動いたという。こうなると、モーわからない。

